

伝統を守りつつ新たな同窓会へ

●浦高同窓会・26年度総会へ!

昨20日(日)の午後は、浦高同窓会常任理事会が1時から、理事会が3時から開催され、5月25日(日)総会に向けた議案の審議や報告が行われました。開会挨拶は、最初に**川野幸夫会長**からです。

「浦高の学生たちは尚文昌武(しょうぶんしょうぶ)の校訓のもと、学業面では東大入試をはじめさまざまな面で頑張ってくれています。また、昨年末のラグビー部の全国大会出場など部活動においても活躍



が目立ち、浦高のプレゼンスが世間からも高い評価をいただいております。同窓会は、こうした高校生を支援するのが第一の目的であります。浦高百年の森事業や奨学財団事業などその活動範囲も広がり、同窓会のあり方自体も問われているところでございます。これまでの善き伝統は継承しつつも、新たな同窓会づくりに

向けて努力したいと思っております。ぜひ、皆様のご協力をお願いします。」

続いて**杉山剛士校長**からのご挨拶は、「同窓会の皆様には、昨年度、奨学財団の設立、ラグビー部の全国大会出場時の特別後援会など物心両面からご支援をいただき心から感謝申し上げます。浦高は、尚文昌武の善い伝統を引き継ぎながらも、常に進化しつづける学校であると感じております。さらに今年度は、スーパーグローバルハイスクールとして、校歌にある「広き宇内に雄飛せん」の言葉のように世界を目指す人材育成に努めてまいります。ますますのご支援をよろしくお願い申し上げます。」

* *

議事は、4つでした。

- (1)平成26年度総会について
- (2)平成25年度事業報告及び決算案について
同監査報告
- (3)平成26年度事業計画案及び予算案について
- (4)役員改選案について

議事については、常任理事会、その後の理事会ともに承認をいただき、5月25日の総会にかけられることになりました。次に、報告事項は3つでした。

- (1)公益財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団
- (2)麗和知的財産委員会
- (3)浦高ラグビー部全国大会出場特別後援会

* *

私も2年間、常任理事会や理事会に参加していますが、毎回、建設的な意見が飛び交う会議はとても素晴らしいと思います。川野会長がご挨拶の中で「**新たな同窓会づくりに向けて努力したい**」と言われるように、浦高と在校生が変わりつつあるように、同窓会も大きく変わる時期にあるようです。

* *

●動き出した奨学財団

今回の報告の中で、「**公益財団法人県立浦和高等学校同窓会奨学財団**」の設立経過と事業内容の報告がありました。

- ①設立については平成25年5月の同窓会総会で承認され、6月17日に一般財団法人設立、11月16日に公益財団法人に移行
- ②25年度事業は、海外大学サマーセミナー派遣事業として5人を派遣。留学奨学金事業として1名、進学奨学金事業として1名に給付が行われました。
- ③年度末資産合計は約3,700万円。内訳は同窓会より基本財産に900万円の出資、事業資産として2,000万円を拠出、寄付が約1,100万円。

※公益財団法人となったことから、寄付控除が適用できるようになり、今年度から活発な寄付をお願いします。

このように同窓会が設立した奨学財団は、設立年度から順調に動き始めました。今後、目標の6千万円の寄付を募り、グローバル社会を担うリーダー育成のための事業が末永く続くよう努力しましょう。

* *

●浦高ラグビー部全国大会出場特別後援会

ラグビー部の全国大会出場を支援するための特別後援会が行った募金活動には4,918件、33百万円余が集まりました。選手派遣費用などの経費を支出した残り1千万円余については、埼玉県大会決勝で怪我をした「**後藤寛和君を支える会**」への支援金となりました。

【経過】埼玉県大会決勝の後半、相手選手へのタックルを行った時に、頸椎を脱臼し、頸髄損傷という重症を負うことになりました。

【現状】受傷後すぐに、搬送された病院で緊急手術を行い、当初は全身麻痺の状態にありましたが、適切な手術と病院によるリハビリ指導と本人の強い意思により、麻痺はありませんが、徐々に機能が回復しつつあります。

【後藤寛和君を支える会】本人とご家族の経済的支援・精神的支援を目的として設立しました。代表は浦高同窓会長。

